

「経営情報イノベーション研究」創刊巻頭言

経営情報イノベーション研究科 研究科長
奥村 昭博

時代はまさに「イノベーション」の時代に入ったと言えよう。エネルギー、エレクトロニクス、ITC、バイオ、宇宙、環境といった技術、そして経済と社会がまさに大きな変動期に突入している。これから社会を決定していくのはこういったイノベーションなのである。我々はその意味ではコペルニクス的転換の時代にあると言える。そこでは物事の見方、考え方、価値などが音を立てて変革していくのである。

このようにイノベーションとは単に技術の革新だけを指すものではない。それはまさに社会を変革するあらゆる事象を指している。変革は人類の進歩にとって不可欠である。明治維新以来日本はひたすら発展の道をたどってきた。そこには無数のイノベーションが成し遂げられてきた。そのたまものとして今日の日本の繁栄が成し遂げられたのである。しかし、今、日本は大きな転換点にきている。これまで得意としてきたモノづくり分野では中進国に追い上げられ、技術先端分野においては激しい競争にさらされている。社会もまた、少子高齢化の中で少しずつ成熟感があふれ始めている。しかし、J. シュンペーターが述べるように、「発展の源泉はイノベーション」にある。今日の日本にとって最大の戦略課題はイノベーションにある。

そういったコンテキストの中で、静岡県立大学の中にイノベーションを遂行しうる人材を養成する「経営情報イノベーション研究科」が設立された。そこでは静岡県内に限らず日本国内でも先駆的にイノベーション研究を中心とする大学院である。そしてその研究を発表する「経営情報イノベーション研究」が発刊されることになった。本研究誌は、教員・大学院生のための研究誌である。イノベーション研究を世に問う場である。この研究誌を通じてますます研究が盛んになり、社会や地域の発展に貢献できると信じている。今後さらなる発展を望むものである。